

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700279		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	グループホーム 御所ノ内ホームときわ(横笛ユニット)		
所在地	〒616-8171京都市右京区太秦青木ケ原町7-2		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700279-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成31年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年4月に開所したなか地域密着型サービス事業として、ご利用者が笑顔多く安心して過ごして頂ける事を基本とし運営している。3ユニットあるなか各利用者が大切にされてきた人生を支えていく為、ユニット毎に支援を考え実施している。自宅でない第2の家と家族でない第2の家族を目指し、日々ケアに努めている。病院が母体であり、看護職員の配置や医師との密な連携も支援の大きな特徴であり信頼となっている。(横笛ユニット総括)  
開所時より女性9名で現在に至る。1名入浴を同姓介助望まれる方もおられるなか、男性職員にも家族のように信頼されている関係ができています。外出等アクティビティにも熱心に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(胡蝶ユニット)と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で、3つの約束あげ理念とし、入職時の理念の確認も継続して実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りのお手伝い参加、事業所の夏祭りにも毎年お招きしている。地域ケア会議にも毎回参加をしている。事業所内で地域向け普通救命講習も企画実施した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族地域向け・地域向けの認知症サポーター講座の企画運営を数回実施している。担当包括主催の認サポ講座もお手伝いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常のご様子等ご報告を行い事業が適性に運営されているか評価をお願いしている。ご家族等の新たな意向聴取やご提案を頂く事も多くあり、支援へ反映するよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	基本姿勢として地域包括との連携を行う事や、地域ケア会議や社会福祉協議会の集まり、関係構築を行いながら事業運営に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会として毎月会議や報告を行い、年間研修計画の一環として3ヶ月に一度内部研修を実施している。外部研修にも随時参加し伝達研修も必ず行っている。合わせて虐待防止・権利擁護研修も必ず行っている。		

京都府 グループホーム 御所ノ内ホームときわ（横笛ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時から契約に至るまで時間をとり丁寧な説明をこころがけている。終末期に関わる内容については、より丁寧な説明をこころがけている。全員の家族が母体京都武田病院でのターミナル対応を希望されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やプラン交付時等に本人家族の意向確認に努めている。運営推進会議でも参加者よりのお話を管理者リーダー会議等でまとめ、事業所内でケアの改善や継続を心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面接や各ユニットの会議で、意見の確認等行なっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	衛生委員会が適正な労務環境やメンタルヘルス支援に関わっている。職員は目標管理を決め、実施に向け事業所が研修等後方支援を行うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標管理における自己評価を行い、上司と連携しながらスキルやキャリアアップが行なえるように努めている。有資格者でケアマネ等実務につく者には、費用等研修支援も実施している。		

京都府 グループホーム 御所ノ内ホームときわ（横笛ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会、地域ケア会議、行政区社会福祉協議会の取り組み等で交流を実施。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接インテーク時より、出来る限り情報の集約、アセスメント実施している。契約時入居までにホーム書式でご家族へ生活暦や家族の思い等をまとめご提供依頼をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHケアを望まれており他ケアは選択されない中、GHケアとして優先順位はなにか、何が一番大切かを考え支援している。利用者が女性のみで構成しており、柔和な雰囲気作り等生活する「その時」を大切にケアカンファレンス等実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHケアとして共に行なう・共に過ごす事が基本となるように努めている。ユニット単位で実施。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同上。その中で家族様の存在は別であり、家族との関係性・時間は一番大切にして頂いている。面会の少ない方も3名程おられ、家族との時間を共有する支援も課題となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年同様知人の面会等、無理の無い範囲でお手伝いしているが、個人情報保護規定もあり面会者がキーパーソン等ではない場合支援に慎重な対応を求められ残念な思いもある。		

京都府 グループホーム 御所ノ内ホームときわ（横笛ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が過ごすフロアで関係性等考慮しお席の位置等を決めている。関係調整が支障あれば席替えの検討、ケア手順・内容の見直しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年同様サービス終了後も、定期広報誌等の郵送等行っている。現在まで具体的な相談はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	GHのケアプランサービス内容は、共に行なう・共に過ごす事が基本となるように努めているが、話せない等支障あれば本人本位で考えケア実施の評価も迅速に行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦や嗜好内容、認知症になった状況等様々な情報の集約を行い、現状でより良い支援となるよう日々努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	同上。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容への記録を基本とし実施していく中で、随時カンファを行うなかで必要時見直ししている。		

京都府 グループホーム 御所ノ内ホームときわ（横笛ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケースでの支援が職員不足もありあまり行っていない。特に加齢に伴いADL低下や認知症の状態進行も多くみられているなか、支援内容の変更を随時行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、地区包括、社会福祉協議会と上手く関わりをもち資源の把握や情報を受け易くするよう連携に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GH入居に際し、母体京都武田病院の医師（武田オーナー医師）が主治医となり、定期的な訪問診療を受けている。必要時、医師の指示で病院受診や24時間入院受付も対応しており、本人家族も安心されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH勤務の正職員正看護師が1名おり、24時間オンコール体制も実施。母体医師や病院との連携も看護師が実施。以外数名看護師がおり日々看護介護の連携を継続して行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院SWが中心に、入退院が支障なく行なえるよう支援している。他法人医療機関との調整は、GH管理者やCM及び看護師が連携し連携室との協議等を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	9に順ずるが、契約時に重度化についての対応説明を実施。多くの家族が京都武田病院での看取りを希望されている。ユニットとしては、全員のご家族が京都武田病院でのターミナル対応を希望されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等対応マニュアル化し、事業所内研修も行う事で可能な限り対応できるようにしている。管理者・看護師は24時間オンコール可能な対応をとっている。		

京都府 グループホーム 御所ノ内ホームときわ（横笛ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火防火非難訓練は2回/1年実施厳守。風水害についても、1回/1年消防からの研修をお願いして受講している。いずれもマニュアル等まとめ整理し非常時に備えている。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護も契約時から最優先事項として取りきめ等継続実施。ケアの根幹に人権と尊重があり、権利擁護研修等で学んでいる。ケアに関して入浴同姓介助や排泄への声かけ等注意して取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ケアの根幹に「共に過ごし行なう」が基本であり、思いや意向がくみ取れる関係作りを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族で季節感のある服装を持参される方も多く、衣類の選択等本人家族の思いをくみ取り組んでいる。訪問理美容でも髪型・毛染めやパーマ等も対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、1月中旬より施設給食業者のみを利用変更されたが、管理栄養士監修され栄養管理は問題ない。行事食はメニューとして随時提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同上。又、母体病院で年2回ご利用者の健診を行い、栄養状態の把握や医師からの適切な指示を受け食事や補助食品等必要なサポートを行っている。		

京都府 グループホーム 御所ノ内ホームときわ（横笛ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、体調不良等で出来ない時以外は必ず実施。歯科の訪問診療も随時取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表等活用し、排泄面の把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄への内服管理、水分量の把握、適度な運動等を基本に支援している。加齢に伴い排便コントロールが上手くいかない方もおられ、法人オーナーである担当医からの指示を受ける等してケアへ取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日を決め対応している。夏季や清潔支援が必要な場合、その他希望があれば予定以外も対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同生活の中で、個別の時間・お部屋で休まれる時間が確保できるよう対応中。自ら動けない方も多く、職員から声かけしお部屋に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の管理は看護師が行なっている。実際の服薬は介護職員が行っているなか、配薬管理を 書式等活用しながら漏れ等ないように実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	インテークから情報収集に努め、アセスメントにて適切な支援をプランに反映させ対応している。38・39に順ずる支援も多い。		

京都府 グループホーム 御所ノ内ホームときわ（横笛ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等外出がお好きな利用者が多く、少しの時間でも近隣へ出かけるようにしている。夏季近くのコンビニにアイスを食べにお連れし大変喜ばれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名自己管理されているが、あまり使用されていない。他全員金銭管理が出来なくなっており、職員が管理させて頂いている。毎月出納をお知らせしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話等自己管理されている方はおられない。必要な連絡は事業所に連絡ある。手紙の管理能力も全員できなくなり職員がお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	21に順じている。皆さんで取り組んだ行事の写真を掲示したり等、季節感・記憶を大切にする支援を行っている。作品飾りつけ等できる限りご利用者と作品を作る等している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	21に準じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居に際し、出来るだけなじみの衣類・物品や調度品を持参して頂き、生活感が失われないよう取り組んでいる。入居後もご家族へ衣類の入れ替え等お願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開所し3年近くなり建物としての環境以外個々のユニットとしての環境を随時整えている。ユニットが自宅でない第2の家として機能するよう、思い出作りや馴染みの環境を模索工夫している。		